でぃすかばぁ～白老

山崎シマ子さん　文化庁長官表彰受賞

長年、アイヌ民族の衣服制作や刺しゅう、ゴザ編みなど女性の手仕事を中心に文化の承継に携り、自ら組織したサークルなどを通し人材の育成にも力を注いでいます。83歳。

「手仕事が好きだから」
「残してくれたものがあるから今がある」

「今までいろいろな賞を頂いたが、どの賞も私が日々の生活で続けてきた手仕事を評価していただいたと感じています。毎日続けていたらあとから賞がついてきたとの思い」と受賞の感想を謙虚に話していました。

幼いころは父親にアイヌ関連のことをやるな！と言われ続けて育ちました。結婚後子育てがひと段落したことを機に旧アイヌ民族博物館に勤め、そこでさまざまな手仕事やアイヌ文化を学び、奥深さを知ったのがその後の活動のきっかけです。

活動歴37年と長く続けられたのは「手仕事が好きだから」「刺しゅうが好きだから」、そして「次の世代へとつないでいきたいから」という気持ちがあるから。「先祖が残し受け継いだ古くからの文様は変えたくない。変えたら先祖も寂しい気持ちになるから。この気持ちごと次の世代へと引き継いでいきたい」。町内のアイヌ伝統工芸サークルの中で２番目に古い「テケカｮペ」を主宰していますが、のれん分けのように広がっていっていることから、若い世代にもつながっているのかなと思っています。

若い世代、子どもへの承継は、自分が財団に所属したころ、踊ったこともないアイヌ古式舞踊を突然踊ることになり、習ったこともなく自信もなかったが、子どものころに見聞きしていたので何とか思い出しながら踊れました。このことがとても印象的で「子どもはその場にいるだけで吸収します。周囲の大人が育てる意識を共通で持てたらいいですね」と願っていました。（舞）

東奏夢くん　（萩小６年）
山口暉乃さん（白小５年）
山口詩乃さん（白小３年）

第34回胆振地域子ども会かるた大会優勝！
16年ぶり全道大会へ
「優勝、最高です！」

昨年12月10日に安平町で行われた第34回胆振地域子ども会かるた大会で優勝を勝ち取った「白龍の桜華」。かるた歴数カ月から３、４年のキャリアの３人組。この中の２人は昨年も同チームで出場しており、惜しくも４位。今度こそはと、リベンジを誓い練習を重ねました。大会では昨年優勝の室蘭のチームにも勝ち、見事優勝。晴れの全道大会への切符を手にしました。指導者の久保貢さんは「人数もぎりぎりでなんとか練習していたのに、大会では神がかったかのように堂々と臨んでいて驚いた」と感心しきり。全道大会は残念ながら１勝ならず敗退。しかし、「読み手の特徴を捉え、息づかいだけで判断し、１文字目を読む前に取ることもある」というかるたの世界を満喫したようでした。（舞）

町地域おこし協力隊　羽地夕夏さん

町内唯一の本屋・またたび文庫リニューアルへ
「『ふつうにいい本屋』をつくりたい！」

自身の蔵書約2,000冊を基に、本屋のない白老で店舗を持たない「移動本屋」をスタート。2022年度は軒先出店やイベント出店は170回を超えました。25歳。

昨年１月からは大町３に拠点を構え、三桁の参加者もあるさまざまな分野のイベントの主催や、週末営業を開始していましたが、「まちの本屋を目指し、幅を広げたい」とリニューアルを決心。町民の声を聞きながら充実させていきたいと住民説明会も開催。24人の町民が参加し、意見を交わしました。

内装は既に完成し、什器や本の購入にクラウドファンディングの活用も予定しています。活動の軸は三つ。新刊本の取り扱いを増やしリクエストにも応える「まちに必要とされている本・場の提供」、お勧め本「またたび文庫的三部作」や本の福袋、マルシェやトークイベントの開催など「新たな本や人、楽しく出会える場」、アイヌ文化関連の本・資料の品ぞろえやひとり部屋スペースを設けるなど「暮らしと地続きにある学びの拠点」を目指しています。ゴールデンウイーク前後には本格稼働させたい考え。「日常になじむ、おもしろい本屋を続けていきたい」。（竹）

☎０９０－２８３６－４６７１、Eメール：matatabibunko@gmail.com